

計画策定のためのプロセス

「横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針(※)」に基づき、小学生とのワークショップや地域の方々との意見交換を行い、本計画を策定しました。

小学生約200名とのワークショップ

計画策定にあたって、上川井小学校、都岡小学校、鶴ヶ峰小学校の3校の小学5年生約200人と将来の帷子川について考えました。

① 帷子川を知る・体験する 2025年6月・7月

帷子川にまつわるクイズを通して、帷子川の特徴や歴史、生き物、川遊びの際の注意点やライフジャケットの着用方法などを学びました。

実際にライフジャケットを着用して、帷子川に入り、網を使って魚などの生き物を採集して観察しました。

② 帷子川の現状を考えるワークショップ 2025年7月

グループに分かれて、川に入った際に自分自身が感じた帷子川の良いところと悪いところをあげてもらいました。そのうえで、将来的にどのような川であってほしいか、川でどんな遊びをしたいかなど、理想の帷子川についてまとめてもらいました。

③ 小学生の意見を、将来の帷子川のコンセプトへ

ワークショップで出された意見をまとめると、「生物」「景観」「利用」「親水」「安全」の5つの重要な視点が浮かび上がり、そこから、帷子川の環境整備のコンセプトを設定しました。

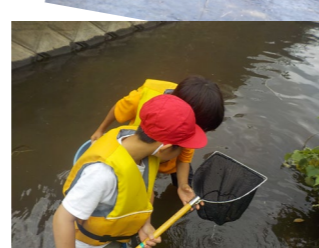
地元の方々との対話

●旭区のタウンミーティング、水辺愛護会との意見交換会などの機会を捉え、旭区民の方から帷子川に対する想いや現状の課題をお伺いしました。

※「横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針」とは近年、世界的潮流であるネイチャーポジティブやWELL-BEINGの実現など、河川水辺環境に期待される役割が増えてきている中、市民生活の質の向上と環境との共生の実現を目指し、これまで以上に良好な河川水辺環境を保全・創出していくための基本方針などを示した指針



「横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針」の詳細はこちらからご確認いただけます。(横浜市HP)



帷子川

横浜市施行区間

河川環境整備計画(案)



帷子川と
ともに

問い合わせ先：横浜市下水道河川局河川部河川流域整備課/河川流域調整課

電話：045-671-2869

Eメール：gk-kasenseibi@city.yokohama.lg.jp

横浜市 下水道河川局

《計画策定の目的》

気候変動の影響による大雨の増加や酷暑の深刻化、さらには生物多様性の損失など、近年、私たちの暮らしを取り巻く環境は大きく変わりつつあります。
 また、少子高齢化の加速度的な進展のほか、働き方や価値観の多様化など、社会情勢にも大きな変化があります。このような状況の中、河川に期待する役割はますます増えてきています。
 帷子川では、大雨から地域を守るため、更なる治水安全度の向上を目指し大規模な河川改修を進めていますが、同時に、より良好な河川水辺空間を保全・創出することが求められてきています。
 そこで、GREEN×EXPO 2027 の開催を大きな契機ととらえ、これまで以上に良好な帷子川の河川水辺空間を保全・創出し、地域の誇りとなる川づくりを進めるため「帷子川河川環境整備計画」を策定します。

《計画範囲》

帷子川は、旭区若葉台に源を発し、旭区、保土ヶ谷区、西区の市街地を西から東へ流れて横浜港へ注ぐ、流路延長約17km、流域面積約57.9km²の二級河川です。
 横浜市は、旭区白根の中堀川の合流点から、二級河川の最上流地点である上川井町付近までの約6kmの河川改修及び維持管理を行っています（以下、横浜市施行区間という。）。
 本計画は、横浜市施行区間の河川環境整備に関するものです。



《計画に基づく整備スケジュール》

整備種別	令和8年度～令和11年度	令和11年度～令和15年度	令和16年度～令和19年度	令和20年度～令和23年度	令和24年度～令和27年度
河川改修	[Red bar indicating continuous maintenance]				
河川環境整備	○ 学校橋 (令和9年概成)		○ 川井本町地区	○ 二俣川合流点	○ 高山橋

◆水質

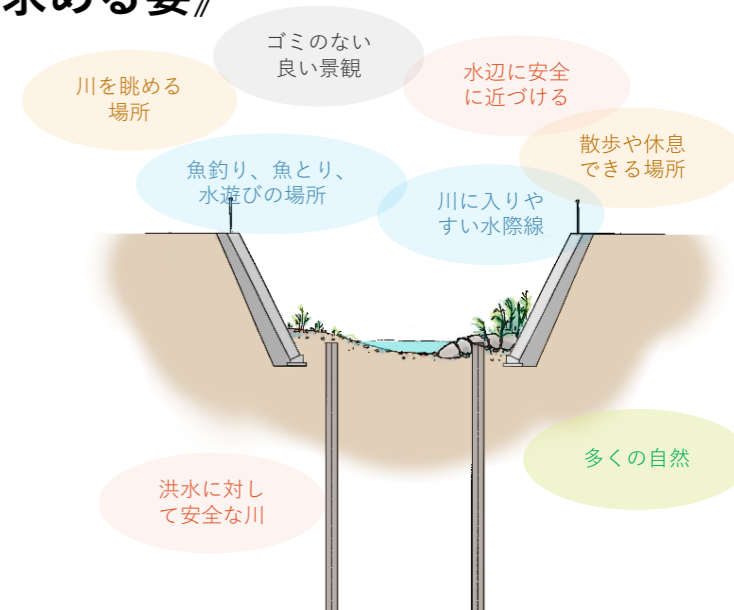
帷子川流域の水質は、pHが7.7～8.6、DOが8.7～11.6、BODが3mg/L以下となっており、水質汚濁に係る環境基準「生活環境の保全に関する環境基準」のB類型に該当しています。これらの水質は、親水等級の評価において、水遊びの空間を設けるのに適した水準とされています。

◆自然環境・生物

【魚類】オイカワ、クロダハゼやアユ、湧水のある環境に生息するホトケドジョウが確認されています。
 【植物】水際にはクサヨシ、ヨシ、セキショウなどが生育しています。一方、特定外来生物に指定されているオオカワヂシャを始めとして、オオカナダモ、オランダガラシなどの外来種も確認されています。

《小学生が考える将来の帷子川に求める姿》

- 【ワークショップで得られた小学生の主な意見】
- ・生物、自然がある
 - ・魚取りや川遊びをしたい
 - ・自然を守りたい
 - ・川に入れる階段、道がほしい
 - ・川を眺めたい
 - ・ゴミを減らしたい
 - ・机や椅子、ベンチがほしい
 - ・散歩がしたい
 - ・安全な川



《拠点の整備》

学校橋拠点



安全な自然体験と地域文化の伝承の交わる空間
 水辺では子どもが安全に自然体験できる場を、陸上では地域の交流のできる広場を整備します。

二俣川合流点拠点



みんなで、安全に水辺の自然を愉しめる、交わりの空間
 水辺ではアユなどが移動できる魚道を整備し、陸上には川を眺めつつ子供が遊べる広場を整備します。

高山橋拠点



子どもも大人も集える憩いの親水空間
 水辺では子どもが安全に遊べる親水空間を創出し、陸上にはイベント等が開催できる広場を整備します。

川井本町地区



河川改修後に民間企業などと連携し、地元の方にとってより良い場となるよう整備を行います。

矢指川合流点拠点



平成8年に整備を行った箇所です。みなさまと意見交換を通じてあり方を検討します。

生き物に触れ合え
人々が憩い集える
安心・安全な川。
帷子川とともに。

治水安全度を向上させる河川改修と合わせ、旭区のシンボルリバーとなるよう、帷子川の河川環境を整備することで、その価値を高め、より一層地域の皆様に親しまれる川づくりを進めます。

具体的には、生き物に配慮した水際の保全、水に近づきやすいスロープや階段の設置、木陰やベンチなどの休憩場所の確保、地域特有の歴史的・文化的資源や自然環境との調和、地域交流の場となる広場の整備などを行い、魅力ある河川空間を創出します。



「快適」「オープン」「ネイチャーポジティブ」
…「横浜市河川水辺環境の保全・創出に関する指針」の基本方針

帷子川の特徴を活かした川づくり



イメージパース



自然な砂州、瀬・淵の形成による川の力を活かした川づくり



現況河道や河畔林を活かした住宅地での川づくり



典型的な都市河川においても、河道内で自然を感じられる多自然川づくり



水辺のふれあいと河床・水際の自然環境を創出する、緑・支川・旧河道と調和した川づくり



人々の憩いの場となる水辺空間の形成を目指すため、河床及び水際の自然環境を創出し活用する川づくり